

平成 30 年度 地域・老年看護学ユニット研究活動状況

A. 構成メンバー

岩井 恵子 川添英利子 原 希代 鹿島 英子 櫻井 昌子

B. 研究活動

1. 研究費執行の経過

ユニットの研究は、共同研究費、科研費、個人研究費による。

科研費による研究は、基盤研究 C 特設分野研究（岩井恵子）「限界集落での生活組織の形成が生活維持に及ぼす影響の検証と生活維持プログラムの構築」（平成 27～30 年）の最終年度である。

共同研究は学内教育研究として、「卒業年次の看護学生に対する OSCE の導入とその評価 - OSCE のルーブリック作成にむけて-」（平成 30～31 年）の初年度である。

2. 共同研究の経過

①卒業年次の看護学生に対する OSCE の導入とその評価 - OSCE のルーブリック作成にむけて -

平成 25 年度より「SP 参加型看護教育システムの構築」の研究を開始し成果を得てきた。今年度は新たに本学教育研究の採用が決定し、SP 参加型の中でも特に 4 年次の行う OSCE を中心にルーブリックの評価表作成を目指し研究を進めてきた。

またくまとり SP、臨地実習施設の指導者の協力を得て、4 年生の総合看護学演習において導入した OSCE も 2 年目を迎えた。前年度の振り返りをもとに、シナリオの微調整、時間配分の調整を行った。2 年間の評価表をもとに、ルーブリックを作成し、OSCE が学生にとって単なる実技テストではなく、卒後にも役立つ教育的なものへと活用できるよう、今後検討を加える。

②限界集落での生活組織の形成が生活維持に及ぼす影響の検証と生活維持プログラムの構築（基盤研究（C）特設分野研究継続）

平成 24 年度より開始した超限界集落での訪問調査も 7 年目となった。A 集落での活動は月 1 回の訪問を継続し、新たに住民のエンドオブライフケアにも視野を広げた。

B 集落では新たに戸別訪問を開始し、住民の生活実態を把握し、今後の支援の材料とするため分析中である。

C. 研究業績

1. 学会発表

岩井 恵子：限界集落における End of Life, 日本老年社会科学会第 60 回大会, 日本教育会館(東京), 2018 年 6 月.

川添英利子, 原希代, 紀平為子, 岩井恵子：限界集落における老人会への参加及び継続要因に関する検討, 第 23 回日本老年看護学会学術集会, 久留米. 2018 年 6 月.

川添英利子, 原希代, 櫻井昌子, 鹿島英子, 岩井恵子：OSCE の検証とその課題, 第 38 回日本看護科学学会学術集会, 愛媛. 2018 年 12 月.

原 希代：大阪府看護協会 看護師職能Ⅱ委員会 29 年度事業の発表, 公益社団法人大阪府看護協会, 平成 30 年 6 月.

2. 論文

原 希代：在宅で重症心身障害児(者)を育てる母親が感じる大変さや気がかりに関する文献検討, 日本重症心身障害学会誌 43 巻 2 号 Page360, 平成 30 年 8 月

3. その他

岩井 恵子：大阪府保健師助産師看護師実習指導者講習会講師, 大阪府看護協会, 2018 年 6 月・9 月 2019 年 2 月.

原 希代：医療的ケアが必要お子様と家族が集う Café Aoba の開催, 平成 30 年 4 月～毎月第 2 土曜日. 医療的ケアの必要なお子様と家族の気持ちがほっとするような場、情報交換、情報共有の場を提供している.